

令和7年度第3回 学校運営協議会 議事録

校名	府立思斉支援学校
校長名	井上 昌二

開催日時	令和8年2月13日(金) 10:00~11:00
開催場所	府立思斉支援学校 3階 学習室
出席者(委員)	原会長(今市中学校長)、狭間副会長(太子橋今市小学校長)、三木委員(旭区障がい者基幹相談支援センター管理者)、石山委員(大宮連合振興町会大宮第16町会長)、中委員(PTA役員)
出席者(学校)	井上校長、上野事務長、掛田教頭、野村教頭、酒井友行首席、水江首席、大場首席、酒井康次首席兼高等部主事、杉浦中学部主事、正木小学部主事
傍聴者	0名
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度 学校経営計画及び学校評価(達成状況) ・令和8年度 学校経営計画(めざす学校像及び中期的目標について) ・学校教育自己診断集計結果 ・学校教育自己診断の結果分析と課題について

議題等(次第順)
<p>1 校長あいさつ</p> <p>2 議案</p> <p>(1)令和7年度 学校経営計画 達成状況について</p> <p>(2)令和8年度 学校経営計画 めざす学校像及び中期的目標について</p> <p>(3)令和7年度 学校教育自己診断結果と分析について</p> <p>(4)その他</p> <p>3 事務連絡</p>
協議内容・承認事項等(意見の概要)
<p>2 議案</p> <p>(1) 令和7年度学校経営計画について(達成状況報告) 井上校長より報告</p> <p>自己評価については教育庁の指示により達成できれば○、◎、できなければ×で評価している。</p> <p>1.児童生徒が安心安全な学校生活を送ることができるよう体制を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報についての項目は、事案が1件あったので×。 ・人権に関する項目は、教職員による学校教育自己診断アンケートにおいて肯定的回答が96%だった。 ・避難訓練については予定通り3回実施した。 ・防犯防災の避難訓練など、地域・警察などと連携して取り組んだ。 ・こどもサポート室の相談週間には13件の相談があった。 ・ヒヤリハットの報告については、1月時点で37件あげられた。 ・アレルギーに関する事故は0件で、事故防止できた。 <p>2.児童生徒及び保護者のニーズに応じた教育活動が展開できるよう、教職員の専門性を高め、資質の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の教員の授業を見学する機会については、ICT 機器を活用して視聴機会が増えたこともあり、教職員による学校教育自己診断アンケートにおいて肯定的回答が88%だった。 ・校内支援チームの立ち上げ、自立活動主任を中心に授業づくり研修に取り組んだ。 ・初任者及び経験の浅い教職員に向けての研修「あしたのために」、「きのうのために」を13回実施。学校教育自己診断での肯定的回答は85%だった。 ・関係外部機関との連携に関する項目は各学部とも相談支援等外部の機関と連携を深めた。 <p>3. 特別支援教育のセンター的機能を発揮し、地域との連携強化による総合的な支援体制を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座については夏季休業中に2講座実施した。 ・LSの支援実施後にアンケートを行っており、3月に集計予定である。 ・学校間交流については、小中高とも予定通り実施した。居住地校交流も小中で予定通り実施できる予定である。 ・北東ブロック研修会については、2回実施した。アンケートは肯定的意見90%以上だった。

- ・保護者との情報共有をめざしたミマモルメの登録率は99.7%であった。
- ・プリント配付については府教委からの指示もあり、今年度は189件のプリントをミマモルメにて配信した。

4. 小学部・中学部・高等部の継続性のある系統的なキャリア教育を実践する。

- ・旭区役所と連携した区役所での出張清掃・自転車整備を2回実施した。旭区の広報誌にも掲載された。
- ・卒業後の進路に向けての中学部高等部生徒を対象に進路学習会を2回実施した。
- ・卒業生を招いた講話を2回実施した。
- ・キャリア教育、に関する項目については教職員による学校教育自己診断アンケートにおいて肯定的回答が93%であった。
- ・給食委員会の活動予定通り実施した。
- ・学部間の交流学习については、全学部で6件実施した。
- ・芸術鑑賞会は大学の学生を招いて2月に実施予定である。
- ・高等部職業コースについては、今年度会議を重ね次年度新たな方向性を打ち出すことになった。

5. 学校教育活動全般及び学校経営・運営の全般において、ICTの積極的・効果的な活用を推進する。

- ・「ほぼ日刊思斉ニュース」(ブログ)は教員だけでなく児童生徒の作成したブログも掲載しており、30件を達成見込みである。
- ・ICT研修については、ミニ研修を7件実施した。
- ・ICT機器の活用に関する項目について、教職員による学校教育自己診断アンケートにおいて肯定的回答が96%であった。
- ・外部講師による教員対象の情報リテラシー研修を実施した。
- ・新校務支援システムを導入しているが、校務においては旧システムと新システムを併用している。分掌等ではチャット等の活用を促しており、利用率は90%を超えている。
- ・毎週水曜日を定時退庁日と設定しており、全体の会議を設定しない等の工夫を行い、少しずつ残業が減っている。

【質疑応答】

委員)

- ・研修がたくさんあり、充実している印象がある。研修の時期、年間計画はあるのか。委員会からのタイムリーな研修要請もあると思うが、小学校ではそこまで研修が取れないと思う。研修の計画等について聞きたい。

事務局)

- ・研修については、次年度の研修予定を前年度中に立てている。研修内容、回数は精選していて、オンデマンドでの開催や長期休業中内の開催等、教務部と調整しながら実施している。水曜は定時退庁日で基本的に全体の会議は実施しない。

委員)

- ・オンデマンドということは、個別に受けるパターンもあるのか。

事務局)

- ・あります。

事務局)

- ・職員会議も書面開催で3日間設けて、それぞれが確認する。何かあればスプレッドシートに入力して、回答をする形。なるべく集まってする会議を減らしている。

委員)

- ・小学校でもゆとりの日があるが、校務が色々あって難しいこともある。
- ・ヒヤリハットについて、内訳や時間帯等はどうなっているのか。

委員)

- ・学部別でいうと小学部が全体の7割程度ある。時間帯としては、授業中・休み時間が多い。内容は身体、体調、飛び出しが多く、低学年に多い。

委員)

- ・評価について、ほぼ達成されているのが凄いことだと思う。やるならば、もう少し挑戦的な目標を立ててもよいのではないかと思う。

事務局)

- ・できる限りチャレンジはしていきたいと思っている。

委員)

- ・ヒヤリハットと事故が切り離されている気がして懸念している。ヒヤリハットと軽微な事故は繋がっていると

思うが、どのような認識なのか。

事務局)

・大きな事故に繋がらないように、という所が課題だと思うので、引き続き取り組んでいきたい。

委員)

・個人情報の誤配付に対する対応策とはどんなものなのか。

事務局)

・対策についてまず事故が起きた経緯も含めて分析を行った。その中で対策として、1つめに個人ファイルのチェック票を改定し、誰が、いつチェックしたか等ダブルチェックできるようにした。2つめに保護者から預る個人情報書類の整理、分かりやすくするために入学式に保護者が持参する個人情報書類を提出する際の簡単なチェックリストを作成した。

委員)

・めざす学校像として「こころゆたか」、「楽しむ力」、「体力」という言葉があり、感動した。

委員)

・評価を見てほぼ達成されているので凄いと感じた。学校が考えて取り組んでいることと保護者側が取り組んでほしいと思っていることに違いがあることもあると思う。保護者と学校の思いに相違が出ないように保護者のニーズを吸い上げてほしい。学校教育自己診断アンケートだけではなかなか伝えにくい方もいると思うので、個人懇談でも伝えられる場面があればいいと思う。

事務局)

・懇談で担任が意見を聞くこと自体は可能ではある。意見の吸い上げをすることで、保護者と教員とのすり合わせを行い、相違を小さくする仕組みを考えていきたいと思う。

委員)

・会議の持ち方で悩むところがある。本校では書面開催はできないと思う。教職員がきっちり議案等を確認していると感じているのか。

事務局)

・みんなが見てくれているのを前提に実施している。支援学校では実質16時から17時の1時間しか会議の時間が取れない。かつては其中でたくさんの審議事項があった。今は書面開催にすることで、自分の時間で確認することができ、スプレッドシートだと対面では出なかった意見が出ることもある。

委員)

・経験の浅い教職員はどのくらいの割合なのか。

事務局)

・経験が3、4年の先生方の割合は、小学部はだいたい3、4割、中学部、高等部では2、3割くらいかなと思う。

委員)

・経験の浅い教職員の育成については、直接子どもに返っていくので、頑張っていけないと感じた。

(2)令和8年度 学校経営計画 めざす学校像及び中期的目標について 井上校長より報告

事務局)

・年間の在校時間360時間を超える教員をゼロにするということは、府教委からの指示で追記したが、めざす学校像と中期的目標は変わっていない。

詳細については次年度の1回目の会議で提案するので、中期的目標についての承認をいただきたい。

全体)

・承認。

(3)令和7年度 学校教育自己診断結果と分析について

事務局)

・保護者と児童生徒の回収率は昨年度から5%以上増加した。

・前年比5%以上の増減がある項目、肯定的回答が80%以下の項目、学校経営計画に関わる項目の3点について分析をした。

・児童生徒について

肯定的回答が前年比より5%以上増加した項目は3項目あった。肯定的回答が前年比より5%以上減少した項目は16項目あり、その中でも「先生になんでも相談できる」は11%減少した。

無回答が増えている。保護者の自由記述からも子どもによって回答が難しいとの記述があったため、次年度

からは、分析方法を改善する。

・保護者について

肯定的回答が前年比より5%以上増加した項目は2項目あった。肯定的回答が前年比より5%以上減少した項目は5項目あり、その中でも「学校は、日常生活において子どもの人権を十分に尊重している」は11%減少した。

・教職員について

全体的に改善傾向にある。否定的回答が20%以上の項目は1項目と改善傾向にあり、該当項目も肯定的回答は前年比より8%増加している。

今年度、重点課題として取り上げたヒヤリハットに関する項目は肯定的回答が6%増加、各分掌、学部、学年間の連携に関する項目も肯定的回答が8%増加した。

・次年度の重点課題について

(1)児童生徒アンケートより「先生にはなんでもそうだんできる」、(2)保護者アンケートより「学校は、日常生活において子どもの人権を十分に尊重している」、(3)教職員アンケートより「教育相談体制の整備について」、(4)学校経営計画より「児童生徒が安全安心な学校生活を送ることができる体制を整える。」

の4点を重点課題とする。

3月の会議で各学年から意見を募って、全体に周知して次年度へ引き継いでいきたい。

委員)

・教職員の意識と保護者の意識との乖離があると思う。うまく伝わっていないんだろうと思うが、保護者に今後伝えていくことについて、何か考えはあるのか。

事務局)

・どんなことをしているのか、分かりにくいと感じられていると思う。学校の取り組みを学校側から発信していく必要があると感じている。

委員)

・子どもや保護者の無回答はわかるが、教職員の無回答が数件ある。どう考えているのか。

事務局)

・養護教諭や栄養教諭、または今年度赴任された教員等で、該当しない項目、分からない項目については無回答になっているかと思われる。

(4)その他

・学校運営協議会への意見書について
意見書の提出はなし。

・ICTネットワーク利活用モデル校事業について報告。

今年度大阪府立の校務支援パソコンのシステムが大きく替わった。この1年間この事業に取りくんだことが大阪府全高等学校、支援学校に共有された。管理職の先生方の業務改善になるようなシステムを作った。

・ものづくりチャレンジカップについて報告。

中西金属工業株式会社と大阪府が提携して行っているイベントで高等部3年生の作品を出品した。支援学校9校27品中、最終審査に8作品残り、生徒が会場でプレゼンをし、ファッション+賞を受賞したことを報告した。思斉祭でも自分たちで作った作品を販売した。

・令和7年度「体力づくり優良校」表彰について報告。

本校は、府内の支援学校の中でも敷地の狭い学校だが、限られた環境の中でどう体力づくりをしていくかということ報告した。河川敷や近隣の公園に積極的に出かける等の取り組みを行ったり、卓球選手に来てもらったりと様々な機会を作った。今後もこの取り組みを継続できればと思っている。

委員)

・色々なことを取り組んでいる事が分かった。来年度も様々なことを取り組んでもらえたらと思う。